

2019年3月14日

Drone Fund

Drone Fund が農業用ドローンのナイルワークスへの出資を実行



Drone Fund(本社:東京都港区、代表:千葉 功太郎、大前 創希)は、株式会社ナイルワークス(本社:東京都渋谷区、代表:柳下 洋、以下、ナイルワークス)に、Drone Fund 2号(正式名称:千葉道場2号投資事業有限責任組合)より出資を実行しました。

【出資について】

日本では、農業従事者の高齢化や後継者不足を背景に離農が加速しており、過去から培われてきたノウハウの断絶が危惧されています。また、離農者の増加により耕地の集約や農業法人の大規模化が進み、ドローンやロボット、ICT等を活用した農作業の省力化や、品質管理の効率化が求められています。ナイルワークスは、「空からの精密農業」をビジョンに掲

げ、農業用ドローンおよび生育診断クラウドサービスの事業化を推進しています。2018年夏には、全国各地で76回におよぶ実証実験で農作業の省力化を検証し、地域や水稻の品種ごとの生育データをもとに、診断技術の精緻化を行っています。また、VAIO株式会社を委託先とした量産化体制を住友商事と共に構築し、量産化モデル第一弾である新型機「T19」を、2019年6月より販売開始するよう準備を進めています。

ナイルワークスのドローンによる農作業の自動化は、現場の負担軽減や産業としての競争力の向上に繋がられ、農業分野におけるドローン活用の可能性が広がります。Drone Fundでは、今回の出資を通じて、農業分野でのドローンの活用を支援し、ドローンの社会実装を目指していきます。

<ナイルワークスについて>

ナイルワークスは、「空からの精密農業」をビジョンに掲げ、農業用ドローンおよび生育診断クラウドサービスの事業化を推進しています。ナイルワークスでは、世界初のセンチメートル精度でドローンを完全自動飛行する技術開発に成功しており、本技術を搭載したドローンを作物上空30~50cmの至近距離を飛行させることにより、薬剤の飛散量を大幅に抑えるだけでなく、作物の生育状態を1株ごとにリアルタイムで診断し、その診断結果に基づいて最適量の肥料・農薬を散布する技術に取り組んでいます。

社名:株式会社ナイルワークス

設立:2015年1月

所在地:東京都渋谷区西原三丁目1番7号

代表者:代表取締役社長 柳下洋

事業内容:農業用ドローンの設計・開発・製造・販売、生育診断技術・栽培技術の研究開発、農業クラウドサービスの開発・販売

ウェブサイト :<https://www.nileworks.co.jp/>

<Drone Fund について>

Drone Fund は、ドローン関連のスタートアップに特化したファンドとして2017年6月に千葉功太郎により設立されました。現在、「ドローン前提社会」と「エアモビリティ社会」の実現をテーマに投資を行っており、今後もグローバルに投資活動を行なっていきます。

略名称: Drone Fund (ドローンファンド)

正式名称: 千葉道場ドローン部 2号投資事業有限責任組合

運営会社: 鎌倉インベストメント株式会社

設立: 2018年8月

代表者: 千葉功太郎、大前創希

所在地: 東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 6F

事業内容: ドローン、エアモビリティ関連への投資及び協業支援

ウェブサイト: <http://dronefund.vc>

<本発表資料のお問い合わせ先>

Drone Fund 広報担当: pr@dronefund.vc

プレスリリース内画像素材:

https://www.dropbox.com/sh/qck68oe5ktl9dpl/AAA50D6BviM9_VkGgrljZMY8a?dl=0